



2025年3月31日

## 芙蓉総合リース株式会社向けシンジケーション方式による サステナビリティ・リンク・ローンの取組みについて ～「TSUBASAアライアンス」連携施策～

千葉銀行（頭取 米本 努）は、2025年3月31日（月）、芙蓉総合リース株式会社（代表取締役社長 織田 寛明）に対し、「TSUBASAアライアンス<sup>※1</sup>」で連携する第四北越銀行、東邦銀行、北洋銀行、滋賀銀行、群馬銀行とともに、同社が策定したサステナブルファイナンス・フレームワーク<sup>※2</sup>を利用した、シンジケーション方式のサステナビリティ・リンク・ローン（以下「SLL」）を実行しましたのでお知らせします。

SLLは、事業者さまがSDGs・ESG戦略における目標値となるサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPT）を設定し、その達成状況に応じて融資条件が変動する仕組みの融資制度です。

貸出先の芙蓉総合リース株式会社は「事業の領域拡大と更なる進化による新たな価値創造に果敢に挑戦し、豊かな社会の実現と持続的な成長に貢献する。」ことを使命とし、コーポレートスローガン「前例のない場所へ。」を掲げ、お客さまのニーズに真摯に向き合い、期待を越えるソリューションの提供を目指して事業活動を行っています。また、同社は、中期経営計画「Fuyo Shared Value 2026」において、脱炭素社会の実現を始めとした社会課題の解決を通じた、企業価値の向上を目指しており、SLLの取組みにより、CO<sub>2</sub>の削減貢献量の増加およびCDP気候変動スコア<sup>※3</sup>においてリーダーシップレベル以上の水準の取得を目指すことで、持続的な価値創造を推進しています。

当行グループは、「一人ひとりの思いを、もっと実現できる地域社会にする」をパーパスに掲げ、事業者さまのサステナビリティ経営および企業価値向上への貢献を目指すとともに、地域社会のパートナーとして、社会・環境課題の解決に資する取組みを一層推進し、地域に寄り添うエンゲージメントバンクグループを目指してまいります。

※1 千葉銀行、第四北越銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行、武蔵野銀行、滋賀銀行、琉球銀行、群馬銀行の10行が参加する地銀広域連携の枠組み。（URL：<https://tsubasa-al.co.jp>）

※2 芙蓉総合リース株式会社 サステナブルファイナンス・フレームワークについて

[https://www.fgl.co.jp/sustainability/esg/pdf/sustainable\\_finance.pdf](https://www.fgl.co.jp/sustainability/esg/pdf/sustainable_finance.pdf)

株式会社日本格付研究所（JCR）による「サステナビリティファイナンス・フレームワーク評価」（2024年8月公表）の詳細について

[https://www.jcr.co.jp/download/ec4ec2e312fbf4410921c0c322ee3d4202cef0c43efcc231ec/24d0652\\_3.pdf](https://www.jcr.co.jp/download/ec4ec2e312fbf4410921c0c322ee3d4202cef0c43efcc231ec/24d0652_3.pdf)

※3 世界の主要企業や都市を対象に「気候変動」「水」「森林」に関する質問状を送付し、温室効果ガスの排出や気候変動による事業リスク・機会などの情報開示を求め、その回答をもとに評価・公表しているNGOが算出するスコアです。評価は、AとA-（リーダーシップレベル）、BとB-（マネジメントレベル）、CとC-（認識レベル）、DとD-（情報開示レベル）の8段階で付与されます。

以上

## 【芙蓉総合リース株式会社向け「サステナビリティ・リンク・ローン」の概要】

貸出先	芙蓉総合リース株式会社
融資実行日	2025年3月31日(月)
融資形態	タームローン(シンジケート・ローン方式)
アレンジャー	千葉銀行
貸出金融機関	千葉銀行、第四北越銀行、東邦銀行、北洋銀行、滋賀銀行、群馬銀行
第三者意見	株式会社日本格付研究所
融資金額(用途)	120億円(運転資金)
融資期間	5年
SPTs	①CO <sub>2</sub> の削減貢献量:2026年度50万t-CO <sub>2</sub> /年 ②CDP気候変動スコア:2029年3月末時点で最新のCDP気候変動スコアにおいてリーダーシップレベル(A、A-)以上の取得